

2) 現在、どれくらい地域で暮らす自信があるかについて、あてはまる数字(1~4)に○をつけてください。

1. 地域で暮らす自信がある
2. どちらかといえば、地域で暮らす自信がある
3. どちらかといえば、地域で暮らす自信はない
4. 地域で暮らす自信はない

3) 現在、施設への入所を考えていますか。あてはまる数字(1~3)に○をつけてください。

1. 施設への入所は考えていない
2. 施設への入所を考えはじめている
3. 実際に施設への入所を申し込んでいる

アンケートは以上で終了です。同封の返信用封筒に入れ無記名でご返送ください。

### 資料 3

厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業（身体・知的障害分野）  
「障害者の QOL 評価に基づくケアマネジメント手法開発の研究」相談支援  
専門員への聞き取り調査における面接項目表

0. 次の ID 番号の方（昨年度の調査対象者）についてうかがいます
  
1. 相談支援の利用によりどのような変化が生じましたか？
  
2. 相談支援の利用により変化が生じる場合、それはどのような要因によると考えられますか？
  
3. 相談支援において意図的に変化を生み出そうとする場合、具体的にどのような事柄に関してどのようなことを意識して関わっていますか？
  
4. 直接的な相談支援以外で変化が生じる場合、具体的にどのような場面で変化が生じ、それはどのような要因によるものだと考えられますか？
  
5. 相談支援におけるフォーマルサービス（制度化されたサービス）の活用において、具体的にどのようなサービスがどのような変化をもたらすと考えられますか？
  
6. 相談支援におけるインフォーマルサービス（制度化されていないサービス）の活用において、具体的にどのようなサービスがどのような変化をもたらすと考えられますか？

**平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金  
障害者対策研究事業（身体・知的等障害分野）  
「障害者の QOL 評価に基づくケアマネジメント手法開発の研究」 研究班**

平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金障害者対策研究事業（身体・知的等障害分野）  
「障害者の QOL 評価に基づくケアマネジメント手法開発の研究」の調査については、  
下記の研究班メンバーにより、調査計画、調査実施、調査結果分析、そして、本報告書の  
執筆を行った。

本研究担当	氏名	所属・役職	H24 年度調査担当
代表研究者	白澤政和	桜美林大学大学院・教授	調査実施責任者
分担研究者	小澤温	筑波大学大学院・教授	調査統括，Ⅰ執筆
研究協力者	森地徹	筑波大学・助教	調査計画，調査実施， 調査結果分析，Ⅱ～ Ⅴ執筆
研究協力者	與那嶺司	神戸女学院大学・准教授	調査計画
研究協力者	橋本卓也	大阪保健医療大学・講師	調査計画
研究協力者	樽井康彦	龍谷大学・講師	調査計画
研究協力者	清水由香	大阪市立大学・助教	調査計画
研究協力者	富岡貴生	かながわ障がいケアマネジメント従事 者ネットワーク（KCN）・理事長	協力員
研究協力者	岡西博一	かながわ障がいケアマネジメント従事 者ネットワーク（KCN）・副理事長	協力員
研究協力者	相馬大祐	国立重度知的障害者総合施設のぞみの 園・研究員	調査実施
研究協力者	林茂史	東松山社会福祉協議会・相談員	調査実施

平成 23 年度～25 年度厚生労働科学研究費補助金  
障害者対策総合研究事業（身体・知的等障害分野）

障害者の QOL 評価に基づくケアマネジメント手法開発の研究  
(H23-身体・知的-一般-006)

発 行 2014 年 3 月

発行責任者 白澤 政和 桜美林大学大学院老年学研究科

